

窓

京都新聞 令和2年(2020年)2月5日(水)

進路変更 覚悟もって走る

木津川市・豊吉 菜央(大学生・22)

大学を卒業目前にして思うことがある。

保育士になることを夢見

て入った大学。充実した講義・実習を経験していくうちに気持ちの変化が芽生えた。保育者として園児と関わるだけでなく、待機児童の子どもたちとも多く関わりたいと考えるようになっていった。

大学3年生の冬、自分の本望にしたいことは何かを本気で考え、保育現場ではなく一般企業に就職することを決めた。保育士になることを期待し応援してくれていた両親に後ろめたさを

感じながらの就職活動は、心が折れそうになることもあった。

しかし、本当に自分のしたい多くの子どもたちと関わるができる企業への内定も決まり、ホッとした。「自分の人生なのだから好きなことをしたらよい」という両親からの声を背に、4月から新たな場所で頑張ろうと思う。

好きなことを応援してくれる家族の期待に応えられるよう、社会人としての覚悟をもって走っていく。

※無断転載不可